

週刊 タバコの正体

Vol. 19

第19巻 (2011.4.13~2011.7.20)

第1話	タバコの成分
第2話	タバコ吸いてえ
第3話	校内禁煙は当然
第4話	ブライアン・リー・カーチス
第5話	カッコわるい歯
第6話	ニコチンは毒物
第7話	「たら、れば」
第8話	「5分に一人」と「たばこ事業法」
第9話	スポーツ選手にタバコは無用
第10話	COPD
第11話	タール
第12話	タバコは、やめようぜ
第13話	1300人の勇気
第14話	避難勧告とタバコ
第15話	タバコは不利

新入生のみなさん、ようこそ和工へ入学されました。そして在校生のみなさん、去年はよく頑張りました。新しい年度を迎え、それぞれの新学年で、さらに成長できるように今年も一緒にがんばりましょう。

そんな成長過程にある皆さんには、いろいろな事に興味を持ち、それを経験してみる積極性が必要です。「はじめの一步」を踏み出さなければ成長はありえませんからね。しかし、興味を持てば、なんでもかんでも経験すべきだとは限りません。興味を持って手を出してはいけない事もあります。その代表が“タバコ”です。

どうして、タバコに手を出してはいけないのか…。今年も、そのわけを勉強していきましょう。ではまず、タバコに含まれる“毒”の紹介から始めます。タバコの煙には、下の表以外に200種類以上の有害物質と60種類以上の発がん物質が含まれているのです。こんなものを経験すべきではありません。

紙巻たばこ煙有害物質の主流煙と副流煙中の含有量

※主流煙:本人が吸い込む煙 副流煙:まわりの人が吸わされる煙

	主流煙 (MS)	副流煙 (SS)	SS/MS 比
●発がん物質 (ng/本)			
ベンゾ(a)ピレン	20-40	68-136	3.4
ジメチルニトロソアミン	5.7-43	680-823	19-129
メチルエチルニトロソアミン	0.4-5.9	9.4-30	5-25
ジエチルニトロソアミン	1.3-3.8	8.2-73	2-56
N-ニトロソノルニコチン	100-550	500-2750	5
4-(N-メチル-N-ニトロソアミノ)-1-(3-ピリジル)-1-ブタノン	80-220	800-2200	10
ニトロソピロリジン	5.1-22	204-387	9-76
キノリン	1700	18000	11
メチルキノリン類	700	8000	11
ヒドラジン	32	96	3
2-ナフチルアミン	1.7	67	39
4-アミノビフェニール	4.6	140	30
O-トルイジン	160	3000	19
●その他の有害物質 (mg/本)			
タール(総称として)	10.2	34.5	3.4
ニコチン	0.46	1.27	2.8
アンモニア	0.16	7.4	46
一酸化炭素	31.4	148	4.7
二酸化炭素	63.5	79.5	1.3
窒素酸化物	0.014	0.051	3.6
フェノール類	0.228	0.603	2.6

『厚生労働省の最新たばこ情報』 サイトから

東日本大震災の発生から1カ月が経過しました。死亡が確認された方が1万3千人を超えてもなお、1万5千人もの行方不明者がいると報道されています。そして警察庁の発表によると14万人近くの方が、およそ2300カ所の避難所で生活されています。その避難所は直接被災した県内だけではなく、周辺の県にも広がっており、北海道から静岡県にまたがる18県に及んでいます。

計算上は、1カ所あたり平均60人が共同生活をしているわけです。みなさんの中には運動クラブの合宿や遠征で、数日間の共同生活を体験した人も多いと思いますが、そんな日々が1カ月以上も続いていると想像してみてください。合宿では、お腹いっぱい食べられる三度の食事と、お風呂があるのは当然です。しかし、お風呂がある避難所はほとんどないでしょう。朝食に一杯のお粥、昼食は各自、夕食にはおにぎり、お風呂は自衛隊が設営する簡易浴室の順番が週に1回まわってくるだけ……というような生活が、いつまで続かわからない状態なのです。

そして避難所には、大人も、子供も、乳幼児も、高齢者も、男性も女性も、場合によればペットも集まっています。ですから、他人の事に気を使う事ばかりで、プライバシーがほとんどありません。大広間や体育館で何十人もの方が寝泊まりするわけですから、落ち着いて寝ることはもちろん、気持ちが安らぐ時間は極端に少ないだろうと思いますし、さらにトイレ事情も決してよくないので、生理現象上のストレスも大きいと思われれます。

さて、焦点をタバコに移します。

避難所生活をしている大人のなかには、喫煙者も少なくないはずですが、大勢の人が集まっている避難所の生活空間は当然“禁煙”です。ただでさえ、ストレスだらけの毎日を送っているのに、ニコチン切れによるイライラまで舞い込んでくるとなると、気の毒なかぎりです。でも、とある避難所で、こんな話があったそうです。

「あー、タバコ吸いてえ。酒も飲めねえし健康になっちゃうよ」と冗談みたいに言って、みんなを明るい気持ちにしてくれるおじいちゃんがありました。

あ～、そうか！

お店は開いてない、電気がきていないので自販機でも買えない。タバコを吸っている人にとって、強制禁煙の状態なんだあ。

「おじいちゃん、タバコ吸えなくて辛い？」

「家族が皆無事で命があっただけで有難い。贅沢言ったらバチあたる。」とニコリ。お世話している私が勇気もらい、真っ暗な避難所でポツと心にあかりが灯りました。

セイコーインスツル『禁煙ナビ』の協力で転載

産業デザイン科 奥田 恭久

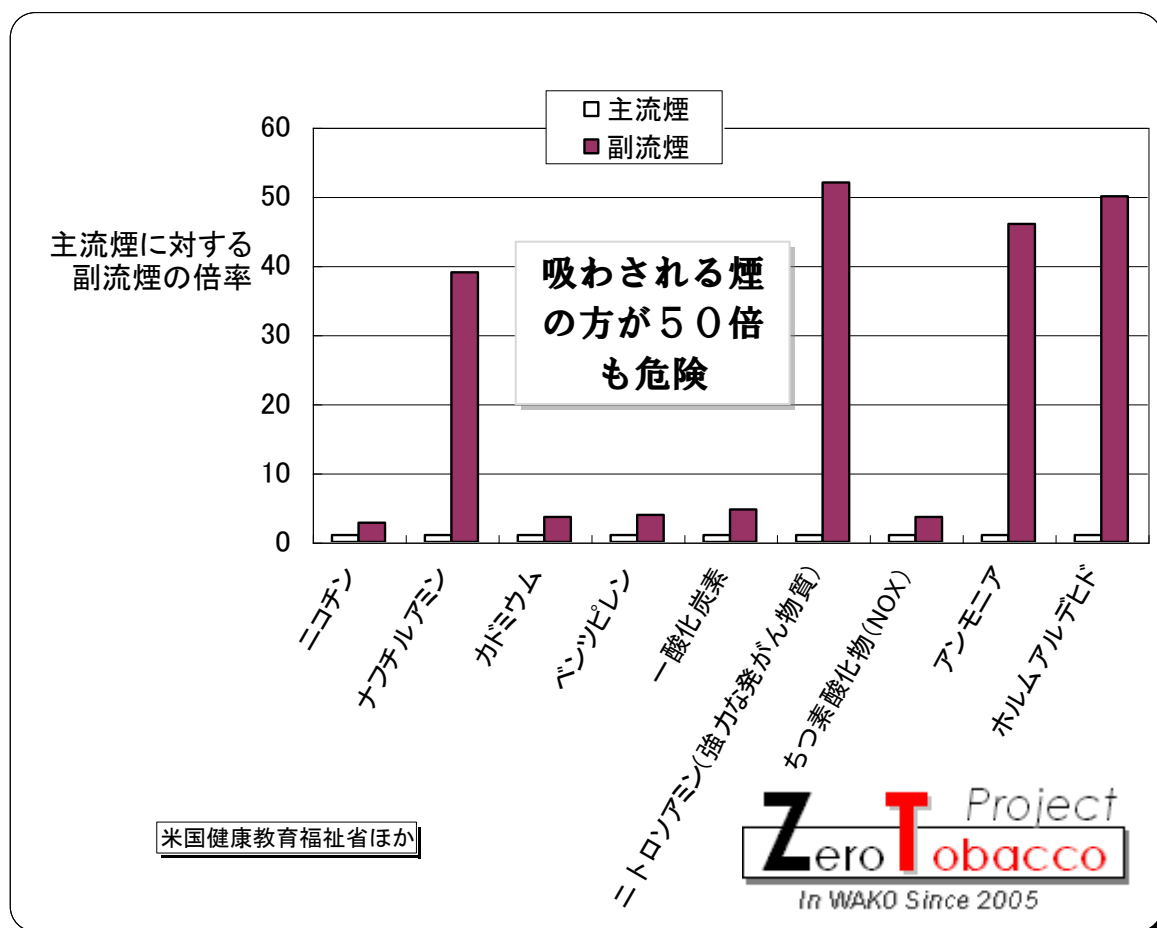
学校でタバコの煙を見る事は、ありません。だって「学校敷地内禁煙」ですから当然です。生徒がタバコを吸うなんていう事は論外ですが、教職員はもちろん来客者も、校内で喫煙することは許されません。「そんな事、わざわざ意識するほどの事じゃなく“常識”でしょう」と感じている人が多いと思います。

君達は小学校時代を含め、先生が校内でタバコを吸う姿を見た記憶は、多分ないはずです。というのは「学校敷地内禁煙」が実施されて、今年で10年目を迎えるからです。「じゃー、それより昔は校内でタバコを吸ってもよかったん？」って思いますよね。そうなんです。職員室には灰皿が置いてあったり、クラブ活動中のグラウンドでもタバコのニオイがしたり・・・ちょっとあり得ない状況でした。

昔は、君達のように「タバコは危険」という事を教えてもらっていなかったのも、多くの大人が興味本位でタバコを吸い始めニコチン依存症となっていました。だから喫煙する教員は多かったし、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)より、周りの人が吸わされる煙(副流煙)のほうが有害だということも知らなかったのです。(下図参照)

しかし今は、君達をタバコの害から守るために「校内禁煙」は当然だし、正しいタバコの知識を君達に伝え、タバコを吸わない大人に育ててもらおう事も当然だと考えています。

産業デザイン科 奥田 恭久



健康で幸せそうな父子が映っています。1999年3月29日のフロリダで撮られた写真です。

なのに父親のブライアン・リー・カーチスさんは4月2日に肺ガンを発病。5月10日に34歳を迎えて、発病からたった2ヵ月後、信じられない姿(写真:下)となって6月3日に亡くなりました。

「えっ、なんで」

残念なことに、彼は13歳からタバコを吸い続けていたのです。

君達も20年後には愛する家族ができていることでしょう。あなたの命はあなただけのものではありません。

「タバコさえ吸い始めなければ」、こんなに悲しくむごい事にはならなかったはずです。

産業デザイン科 奥田 恭久



3月29日、2歳になる息子ブライアン・ジュニアを抱くブライアン・リー・カーチス33歳。

カーチスはこの2ヶ月後、亡くなることになる。

[Photo: Curtis Family]



「タバコは毒の缶詰」だと言われるほど、有害物質がいっぱい含まれています。だから最初の一口は必ず、ゴホゴホむせかえり、頭がクラクラし吐き気さえ感じるはず。なのに、一度吸い始めると「うまい」と思わせてしまうのはタバコの主成分“ニコチン”の仕業で、麻薬のようにやめられなくなってしまいます。それがニコチン依存症なのです。

一旦、ニコチンを自分の体に入れてしまうと、常に体内にニコチンを備蓄しておかないと生活できなくなります。というのは、ニコチンが切れるとイライラして、ただただ「タバコが吸いたい」という思いで頭がいっぱいになってしまい、何も手につかなくなるからです。つまり、ニコチンを補給するために1～2時間間隔でタバコを吸い続ける日が、今日も、明日も、明後日も、またその次の日も・・・永遠に続くかも知れないのです。

必要なのはニコチンなのに「タバコは毒の缶詰」なので、ついでにいっぱい毒を吸い込むことになり。自分では「タバコを吸ってる」つもりでも、ニコチンに「毒を吸わされている」ようなものです。そうすると当然、身体のどこかに異常があらわれます。

その異常がわかりやすいのは、“口”と“歯”です。

ニコッとさわやかに笑っているはずが、こんな歯を見せているとなると「カッコわる～」いですよね。

産業デザイン科 奥田 恭久



健康な歯肉はタバコを吸うだけで・・・



歯についた歯石と着色



タバコで黒ずんだ歯肉



汚れの付着した舌

タバコを一度吸い始めると、その主成分“ニコチン”の仕業で、麻薬のようにやめられなくなってしまうのがニコチン依存症だということを、何度も紹介してきました。でも“ニコチン”って一体どんなものなのか、案外知られていません。

インターネットの Wikipedia には、次のような解説が載っています。今回は中間考査のおまけのつもりで、虫食い問題にしてみました。さて、①～⑥にあてはまるのはどれでしょうか。

ニコチン (nicotine) はアルカロイドの一種であり(①)に毒物として指定された物質である。揮発性がある無色の油状液体で化学式は $C_{10}H_{14}N_2$ 。主に(②)の葉に含まれる。天然由来の物質であり、即効性の非常に強い(③)を持つ。半数致死量は人で $0.5\text{mg}\sim 1.0\text{mg/kg}$ と猛毒で、その毒性は(④)の倍以上に匹敵する。人体に対して神経毒としての有害性は持つが、ニコチン自体に発癌性はない。ほぼ全ての(⑤)に対して毒性を発揮する為、(⑥)などの用途で使用されている。しかし人間に対しても毒性を発揮する為、近年は害虫などに対するのみ選択的に毒性を発揮するよう改良されたネオニコチノイドなどが開発され使用されるようになった。「ニコチン」の名前は 1550 年にタバコ種をパリに持ち帰ったフランスの駐ポルトガル大使ジャン・ニコ(Jean Nicot, 1530 年 ~ 1600 年)に由来する。

a 殺虫 b タバコ c 青酸カリ d 毒物および劇物取締法 e 生物 f 神経毒性

答え①d ②b ③f ④c ⑤e ⑥a

「毒物および劇物取締法」で毒物および劇物に指定されると、製造、輸入、販売、取扱などが厳しく規制されます。そして“毒物”とは、大人が誤飲した場合の致死量が2g程度以下なのです。たった2gで、大人の命を奪ってしまうほどの“毒物”に指定されている“ニコチン”がタバコには含まれています。

さらに付け加えると「半数致死量」とは、体重1kgあたり $0.5\text{mg}\sim 1.0\text{mg}$ のニコチンを取り込んでしまうと半数の人が死亡してしまう、という意味なのです。

では、タバコ1本あたりのニコチンの含有量はというと、1.0mg 前後です。ということは、体重50kgの人が50本以上吸うと、命にかかわるほど危険な状態になりかねません。

「えー、なんで、そんな危ないもの売ってんの？」

そうですね。厳しく規制されるはずの“ニコチン”が、日本のいたるところに設置された自動販売機で売られているのは、どういう訳なのでしょう。……次回につづく……

産業デザイン科 奥田 恭久

ニコチンを“毒物”に指定している「毒物及び劇物取締法」は、昭和25年にできた法律で、その第1条には『この法律は、毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行うことを目的とする。』と謳われています。

一方、ニコチンが主成分のタバコは、明治時代から嗜好品として世間に広く普及していました。後に毒物に指定されるほど危険な物質が含まれている事を知らないまま、タバコは日本じゅうで売られていたのです。

明治時代、タバコの製造・販売は国が独占し、その売上は国家予算に組み込まれていました。だから政府は、タバコでかなり儲けていたのです。というのも当時は、現在と違う事に多くの予算が必要だったので、タバコは国の専売制でした。何のお金が必要だったかというと・・・軍事費です。歴史で習ったとおり、第二次世界大戦が終わるまで、日本は軍隊を持ち戦争を繰り返していましたからね。

さて戦後、軍隊を持たなくなった日本には、軍事費の必要がなくなったはずですが、タバコの専売制は1985年(昭和60年)まで続けられ、多額の売上が国家予算に計上されました。戦後に制定された「毒物及び劇物取締法」で、保健衛生上の見地からニコチンは毒物に指定されていたにもかかわらず、タバコの製造・販売は国が率先して続けていたのです。つまり、保健衛生上の見地よりも、国家予算を優先させていた訳です。

その結果、2000年にはタバコの自動販売機の設置台数が60万台を超えるようになってしまい、毒物であるニコチンが、日本の津々浦々で、だれにでも入手可能な環境ができてしまいました。

ところで、歴史上の出来事に、「もし・・・だったら、こうなっていなかったはずだ」なんて言う会話がよく出てきますが、タバコの歴史に関しても

「もし今、ニコチンが含まれている事がわかっている“タバコ”という名前の商品が開発されたとしたら、間違いなく販売はおろか、製造することも許される事はないはずだ」

と言い切れると思います。

しかし「たら、れば」をいくら多く語っても、過ぎ去った歴史は変える事はできません。私達にできるのは未来の歴史を作る事です。100年後の人達に「たら、れば」ではなく、「よくぞ、タバコを無くしてくれた」と言ってもらえる歴史を作りたいものです。

産業デザイン科 奥田 恭久

「タバコは体に悪い」事は間違いありません。なのに、日本たばこ協会の発表によると昨年(平成22年度)1年間に2000億本以上も売れており、金額にすると、なんと3兆6千億円になったそうです。1日あたりの売上は約100億円です。来る日も来る日も100億円分のタバコが煙となって人々の身体を侵しているのです。

では、3兆6千億円分のタバコは、人々に一体どのくらいの被害を与えているのでしょうか？

実は、“タバコが原因による病気”で亡くなる人は、毎年10万人以上だと言われています。10万人と言われてもピンとこないでしょうね。そこで、これを一日あたりにすると約300人です。さらに一日は1440分(60分×24)なので300人で割ると……なんと、5分に一人が亡くなっている計算になります。

「うっそー、そんなはずないやろ」と思うでしょうが、年間10万人という数字は、何年も前から言われ続けられていて、これを否定するような報道はありません。でも世間には、この事が大きく取り上げられません。というのも、“タバコが原因による病気”とは、肺がん、脳卒中、心筋梗塞、胃がん…などを指します。つまり、亡くなった方の死因は“タバコ”ではなく“肺がん”や“脳卒中”とされるからなのです。

日本では10万人ですが、世界中で“タバコが原因による病気”で亡くなる人は500万人以上だとされています。だから、WHO(世界保健機関)は、タバコ規制枠組み条約(FCTC)という国際条約を制定して、タバコによる死者を無くそうとしています。日本政府も含め173カ国がこの条約に合意(批准)しているのですが、日本には次のような法律があり、タバコの売上に大きな力を発揮しています。

たばこ事業法 第1条

この法律は、たばこ専売制度の廃止に伴い、製造たばこに係る租税が財政収入において占める地位等にかんがみ、製造たばこの原料用としての国内産の葉たばこの生産及び買入れ並びに製造たばこの製造及び販売の事業等に関し所要の調整を行うことにより、我が国たばこ産業の健全な発展を図り、もって財政収入の安定的確保及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。

毎日5分に一人が亡くなっているのにもかかわらず、毎日100億円、年間3兆6千億円の売り上げを確保している実態を知っておいてください。そして、この現状をどうすべきか考えていきましょう。

産業デザイン科 奥田 恭久

運動クラブで頑張っている皆さん、総体の結果はいかがでしたか。3年生にとっては最後の総体だったので、いろんな意味で格別な大会だったことだと思います。和工の運動クラブは活発で、どのクラブも県内では平均以上の実績と実力を持っています。部員数も多く、放課後は言うに及ばず、毎朝7時半には朝練に励んでいる生徒がいっぱいで、活気にあふれています。

ところで、スポーツ選手にはタバコは無用です。「そなん、常識やん」って思っているはずですが、でも「なんで？」って聞かれたら、ちゃんと答えられるでしょうか。そこで今回は、「なんで、スポーツ選手にはタバコは無用」なのか、紹介しましょう。

タバコには200種類以上の有害物質と60種類以上の発がん性物質が含まれていますが、スポーツ選手に大きなダメージを与える物質は、タバコ本体に含まれていません。「えっ、どういう事？」と思うでしょうが、その物質は、火をつけて吸いこんだ時に発生するのです。その正体は“一酸化炭素”。

“一酸化炭素”は、不完全燃焼が起こった時に発生します。ものが完全に燃焼している時は炎のわりに煙はたちませんが、不完全燃焼の場合は、炎より煙が大きくなります。これは、まさにタバコを吸っている状態です。ということはタバコを吸うと、一酸化炭素も吸いこんでいるのです。

さて、スポーツ選手は激しい運動をするために、より多くの酸素が必要です。その証拠にキツイ練習をすると、鼻から入る空気だけでは足りないので、口を開けてハアハアしながら酸素を取り込もうとしますよね。取り込まれた酸素は、肺の中で血液に溶け込み身体全体に送られるわけです。詳しく言うと、血液中のヘモグロビンという成分が酸素と結び付き、血管の中を流れていきます。

ところが、このヘモグロビンは、酸素より一酸化炭素を好むので、吸い込んだ空気に一酸化炭素があると酸素をそっちのけにして一酸化炭素と結びついてしまいます。すると、身体に酸素がいきわたらなくなり、最悪の場合死亡します。これが“一酸化炭素中毒死”なのです。

タバコで“一酸化炭素中毒死”をするほど大量の一酸化炭素を吸い込むわけではありませんが、酸素を運ぶためのヘモグロビンが減ってしまうことになるので、スポーツ選手の運動能力を下げちゃうのは間違いありません。

わかってもらえたでしょうか。だから、一流のスポーツ選手はタバコを吸わないし、吸わないから一流になれるのでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久

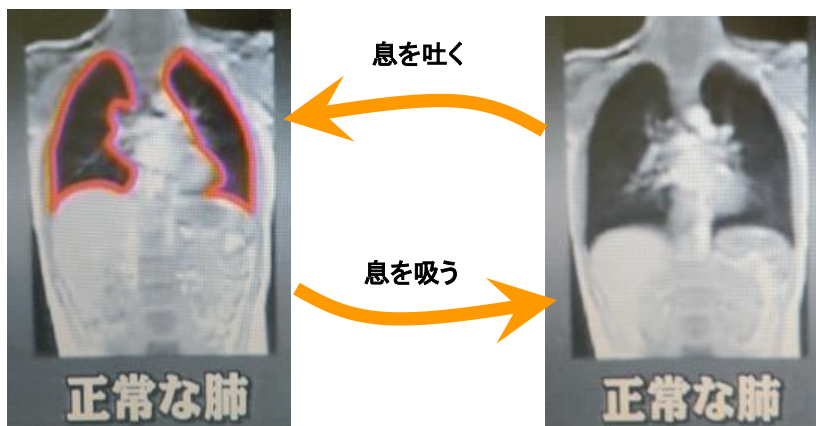
前回、タバコを吸うと運動能力が低下する事を紹介しました。意外にもタバコに含まれる有害物質ではなく、タバコが燃焼する際に発生する“一酸化炭素”が悪さをしている事を知ってもらいました。酸素を運ぶ血液中のヘモグロビンが、一酸化炭素に横取りされてしまうので、身体は酸欠状態となるからでしたね。

では、本体に含まれる有害物質は、運動能力に影響しないの？…って思っははいけません。

タバコを何十年も吸い続けると、肺はその有害物質でスカスカにされてしまいます。そうなった肺は膨らむ事も縮む事もできなくなり、息を吸い込んだり吐いたりできなくなってしまいます。(写真上)つまり、空気そのものを体内に取り込めなくなる、という致命的な事態に陥ります。この病気は「COPD」慢性閉塞性肺疾患(まんせいへいそくせいはいしつかん)と呼ばれています。

こうなると運動どころではなく、日常生活にさえ酸素ボンベが必要になります。

産業デザイン科 奥田 恭久



正常な肺は、息を吸い込めば大きく膨らみ、吐くと小さく縮む。

朝日放送「たけしの本当は怖い家庭の医学」

必ず成功する！禁煙SP から

第11話

吸い終わったタバコのフィルターは、必ず茶色になっています。家族をはじめ身近な人に喫煙者がいなければ、吸い殻を目にすることがないので、そんな事は知らないかもしれませんが、焦げて茶色になっているわけではありません。

この茶色の正体はタバコに含まれる“タール”という成分で、「タバコのヤニ」と呼ばれる事もあります。喫煙が日常的に行われている部屋の窓や壁が茶色になっているのは、このせいです。そして、なによりも喫煙者の歯の裏を茶色や黒くしているのは、このタールなのです。

フィルターや、壁、それに歯は「タールのせいで茶色になっている」事がわかりますが、目に見えない“肺”の中がタールのせいで真っ黒になっている事は誰にもわかりません。

じつは、タバコ1箱を水につけておくと、右の写真のようにタールで真っ黒になってしまいます。見た瞬間「ゲー、気持ちわるー」って叫びたくなります。それに、この瓶のふたを開けると、どんなニオイがするのか考えてみただけで胸が悪くなりますよね。

でも、一日1箱吸い続ける喫煙者は、これを毎日飲み続けているようなものです。



実際は水に溶かしてタバコを吸うわけではないので、左の写真のようなネバネバのタールが体内、特に肺に溜まっていきます。

来る日も来る日も毎日欠かさず20本を吸い続けると1年で、このネバネバが40g(左の写真の量)も肺に蓄積されていくそうです。しかもこれにかかる費用は、410円 X 365日 = 14万9650円。

多くの皆さんは「タバコに手をだしてなくて、良かった」と思っているはずですよ。



産業デザイン科 奥田 恭久

タバコの自動販売機や売店には「タバコは20才になってから」と掲示されています。これは、未成年者喫煙禁止法という法律があるからなのですが、実際、法律どおり「20才になってからタバコを吸い始めた」人はどの程度いるのでしょうか。

少し古いデータですが、1999年に行われた厚生労働省の調査によると、20才以降に吸い始めた人は45.3%だったそうです。つまり、過半数となる54.7%の喫煙者は20才になるまでに、タバコを吸い始めていたわけです。法律で禁じられているにもかかわらず、中学生や高校生、大学生がタバコを吸い始めるのは珍しい事ではなく、むしろありふれた事だったということですね。

この調査によると、未成年のうち中高生の頃にタバコを吸い始めてしまった人は約30%もいたのです。だから、タバコを吸っている中高生は、見えないところで幅をきかせて、「お前も、吸えよ」と友達を誘う事も多かったのです。誘われた側は、仲間はずれにされるのが怖いのと、「吸ってみたい」という好奇心から、ついつい吸い始めてしまうというケースが後を絶たなかったため、当時の禁煙教育には、「上手なタバコの断り方」が組み込まれていた程でした。

また、前述の調査とは別の厚生労働省の高校生を対象とした調査によると、1996年には5人に一人が毎日喫煙していました。君達が生まれた頃の高校生は、非常にタバコ臭かったということですね。

ところが、2008年に行った調査では、喫煙常習者は20人に一人だったそうです。10年あまりで4分の1にまで激減しました。これは、タバコの有害性が世間一般に浸透したのと、子どもたちにタバコを吸い始めさせない環境が整備されてきた結果だと思われます。

という事で、現在では「お前も、吸えよ」なんて言われる事は、なくなってきていると思っています。それどころか、タバコに関する正しい知識を持っている皆さんから見れば、隠れてタバコを吸っている生徒達の姿は「ニコチン依存症になってしまって、かわいそうに」と映っていることでしょう。

残念ながら、和工にもニコチン依存症になってしまっている生徒はいるようです。

今は、タバコを吸わない事が当たり前で、タバコを手にとると、「えっ、タバコ吸うの」って、敬遠される雰囲気ですが、みんなが快適に学校生活を送れるように、そんな友達には、「タバコは、やめようぜ」って言ってあげませんか。

「お前も、吸えよ」の時代は終わりにしましょう。

第13話

1学期の期末考査が終了しましたが、夏休みはもう少し先です。気分は、すでに夏休みになっている人もいるでしょうが、まだしばらく授業は続きますから、生活のリズムが乱れないよう、もう少し気持ちを引き締めてがんばってください。

さて前回、ニコチン依存になっている人に「タバコは、やめようぜ」と言ってあげましょう。と提案しました。しかし、現実には火の付いたタバコを持った生徒に向かって「タバコは、やめようぜ」として声をかける勇氣がある人は、諸君のなかにはいるでしょうか。

じつは大人社会でも、ルール違反や迷惑行為をしている人に対して、毅然と「やめてください」と直接言える人は、めったにいません。ほとんどの場合、“見て見ぬふり”をするか、その場所の管理者もしくは警察に通報するぐらいで終わります。だから、学校内でのルール違反や迷惑行為に対しても、君達が同じように、“見て見ぬふり”をするか、先生に報告するか、しかできないのも無理はありません。

だって、そんな行為をしている人に「やめろ」と言うのは、相当な覚悟が必要ですから、身体的にも精神的にも強く、そして自信のある人でなければ行動できないと思います。

だとすれば、ルール違反や迷惑行為はやめさせる機会は限られてしまいます。そうすると、そんな行為がだんだん増えて、そのうち迷惑行為が当たり前となり、ルール違反をしている側は平気なのに、大勢の人たちが我慢をしなくてはならない、という状況になってしまいます。

だから、迷惑行為を放っておいてはいけません。

学校で、タバコを我慢できずに吸ってしまうニコチン依存の生徒たちには、迷惑行為だという意識はないのかもしれませんが、廊下や階段にタバコのニオイが漂うだけで、ものすごく不愉快な気分になりませんか。

和工には職員を含めると1300人以上の人がいます。その中で迷惑行為にかかわる生徒は、ほんの一部だと思います。一人一人の勇氣は小さいかもしれませんが、私たち教員と、真摯に高校生活を送っている大勢の皆さんが協力して、その勇氣を合わせれば、「迷惑行為を許さない」毅然とした学校が作れると思います。

そして、口にしないで感じる事ができる「タバコは、やめようぜ」という雰囲気を作っていきましょう。

東日本大震災が起こった3月11日から4カ月が過ぎましたが、新聞やニュースでは、被災地で暮らす人々の様子や、復興対策、節電のお願いなどが毎日取り上げられています。今なお、7000人前後の行方不明者と、10万人近くの避難生活者と、がれきの山が多く残っている被災地には、大地震と大津波の衝撃が、まだまだ強く残っているのです。

しかし、私たちの意識の中からは、日に日にあの衝撃は薄らいでいます。大震災が起こったという事実を忘れる事はありませんが、震災関連のニュースが日常的になってしまい、ついつい関心が薄くなっているような気がします。ところが先週、和歌山で比較的大きな地震が起きました。和歌山市の震度は3、震源近くの有田地域では震度5強でした。幸い人命にかかわるような災害は発生せず、事なきを得ましたが、揺れた直後は「東北を襲ったような津波がきたら」と思わずにはいられませんでした。

ところで、4カ月前の3月11日、和歌山県の沿岸地域にも大津波警報が発令され、住民への避難勧告や避難指示が出ていた事を知っているでしょうか。皆さんのなかには避難した人もいるかもしれませんが、対象地域の住民の多くは避難しなかったそうです。結果的には、大きな津波は来なかったのので、「避難しなくて正解だった」と感じた人が多かったのではないのでしょうか。

では、なぜ避難する人が少なかったのでしょうか。

避難指示が出ている事を知らなかった人もいたでしょう。

「多分、津波は来ないだろう」と判断した人もいたでしょう。

近所の人や誰も避難していないので、避難しなくていいと思った人もいたでしょう。

そして、結果的に「避難しなくて正解だった」となったのですが、こんな体験を重ねると、いつか後悔するかも知れませんよね。

さて、タバコの話に切り替えます。

「タバコが、そんなに有害だとは知らなかった」

「タバコを吸っても、多分大丈夫だろう」

「みんな吸ってるから、吸っていいと思った」

「避難した方が安全ですよ」と言われて避難しない理由と、「タバコは吸わない方がいいですよ」と言われてタバコを吸っている理由は良く似ています。そして、タバコはいつか必ず後悔します。

今、健康に生活できている事を感謝し、ここに改めて大震災で亡くなられた1万5千人以上の方々のご冥福を祈るとともに、これからも健康な人生が送れるよう、自らの心がけと行動を見つめ直しましょう。

第15話

いよいよ明日から夏休みです。この期間、3年生の皆さんにとっては、卒業後の進路を決める重要な時期となります。すでに7月1日から求人票の受付が始まっており、もう200前後の企業から求人がきています。就職希望者には、どんな企業がきているのか、興味津津というところでしょうか。

しかし、ここ数年の不況と東日本大震災の影響もあって、今年の就職は厳しい状況になると予想されます。君達のせいではありませんが時代のめぐり合わせなので、どうする事もできません。まずは、この状況をしっかり受け入れ、気持ちの上で消極的にならず、家族や先生を含めた信頼できる人たちとコミュニケーションをとり、求人の内容などを落ち着いて検討し、来る採用試験にむけて可能性が広がるよう積極的に行動してください。

ところで不況下では、企業にしても、どんな人を採用するかは重要な事柄です。採用基準はそれぞれに色々でしょうが、「少しでも経営にプラスになる事」を優先し、逆に言えば「できるだけマイナスになる事」を避ける判断があつて当然でしょうね。そこで、昨年あたりから「喫煙者は採用しません」とか、「できれば非喫煙者を採用します」という企業が現れています。

喫煙者を採用すると、仕事中に必ず喫煙時間が必要です。そして、タバコを吸わない人を受動喫煙から守るために、相当な費用をかけて喫煙室を作らなければならない場合もあります。さらに、喫煙者はタバコの害によって、長期療養が必要な病気になる確率が高くなるので、不安が大きくなります。ということで、喫煙者には厳しいようですが、「わざわざタバコを吸う人を雇う」のは不利なのです。

だから、高校生よりも競争が厳しい、大学生や専門学校生の“就活”は、まず“禁煙”してから始めなければならない時代になるかも知れません。

「高校生は喫煙していない」という前提があるので、君たちには「喫煙者は採用しません」の項目は、採用試験の段階では関係ありません。それに、進学希望の諸君にも、とりあえず関係ないでしょう。

しかし、「喫煙者は採用しません」という流れが始まっている事は知っておいて下さい。

タバコを吸い始めて一旦“ニコチン依存症”にかかると、「やめたい」と思っても簡単に止める事ができません。多くの喫煙者が、この事を経験し苦しんでいる最中だと思います。企業が「わざわざ喫煙者を採用しない」と同じように、君たちにとっても「わざわざタバコを吸い始める」と不利になるのは明らかです。

産業デザイン科 奥田 恭久